

オンラインチェック強化による届出票疑義照会件数の変化

中林愛恵¹⁻²⁾,川上あゆみ¹⁻²⁾,田村研治²⁻³⁾,松田智大⁴⁾

- 1)島根大学医学部医療サービス課
- 2)島根県がん登録室
- 3)島根大学医学部附属病院先端がん治療センター
- 4)国立がん研究センターがん対策情報センター

【目的】

がん登録データの精度向上のため、島根県がん登録室では届出内容に疑義のある届出票について届出元施設に疑義照会を行ってきた。2019年症例届出時からオンラインチェックが強化され、オンラインシステムを使って届出するときにエラーチェックで届出票の整合性不備が検出された場合は届出できず、届出元でエラー修正後に届出が必要になった。

そこで、オンラインチェック強化の効果検証のため、疑義照会件数やエラー内容について調査を行った。

【方法】

2020年はじめに実装されたオンラインチェック強化前に届出された2018年症例と、強化後に届出された2019年症例について、島根県がん登録室の疑義照会件数の変化を、届出方法別、エラーコード別に調査した。届出方法とは、オンラインチェック強化の影響を受けているオンラインで届出された票と、影響を受けていない郵送で届出された票の比較を行った。

【結果】

2018年症例は、56施設から8487件、2019年症例は、53施設から9074件の届出があり、届出施設や届出件数の傾向は変わらなかった。

その内、疑義照会を行ったのは、2018年症例40施設443件、照会施設割合71.4%、照会件数割合は全届出票の5.2%だった。2019年症例への疑義照会は、28施設86件、照会施設割合52.8%、照会件数割合

0.9%と、施設割合も件数割合も、2019年症例への疑義照会が少なくなっている。1施設当たり照会件数も2018年症例は11.1件、2019年症例は3.1件と少なくなっている。

届出方法別に検証すると、2018年症例も2019年症例も届出方法の多くはオンライン届出(98-99%)だった。2018年症例の照会件数割合はオンライン4.8%(406/8397)で郵送41.1%(37/90)に対し、2019年症例の照会件数割合はオンライン0.8%(73/9007)で郵送19.4%(13/67)だった。

表1 疑義照会件数

	2018年			2019年		
	届出施設数	オンライン	郵送	届出施設数	オンライン	郵送
届出施設数	56	45	11	53	42	11
届出件数	8487	8397	90	9074	9007	67
照会施設数	40	34	6	28	23	5
照会件数	443	406	37	86	73	13
照会施設数割合	71.4%	75.6%	54.5%	52.8%	54.8%	45.5%
照会件数割合	5.2%	4.8%	41.1%	0.9%	0.8%	19.4%
1施設あたり照会件数	11.1	11.9	6.2	3.1	3.2	2.6

次に、施設毎に届出方法と疑義照会割合を示す。図1で白色の棒グラフはその施設の届出数で、黒色の棒グラフはその施設が届出した票のうち、疑義照会を行った票を示している。

2018年症例も2019年症例も郵送届出施設よりもオンライン届出施設は届出件数が多い傾向があった。オンライン届出施設については、届出数が多いほうが、大規模でがん登録に習熟した施設が多く、疑義照会が少ない傾向にあり、届出数が少ない施設は疑義照会の割合が高い傾向にあった。2018年症例は黒い棒グラフの疑義照会を行った票が多かったが、チェック強化により2019年症例では減少した。

郵送届出施設はチェック強化の影響を受けていないため、2018年症例も2019年症例も疑義照会の割合が高かった。

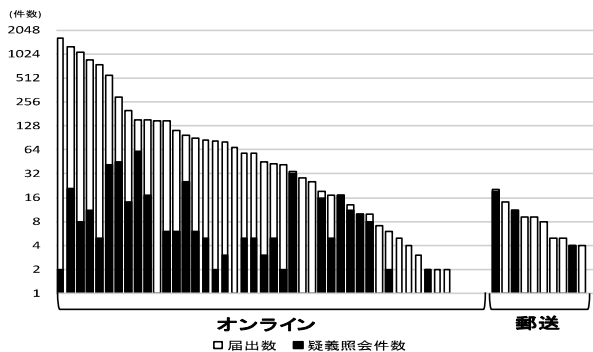


図 1-1 届出方法と疑義照会割合(2018 年症例)

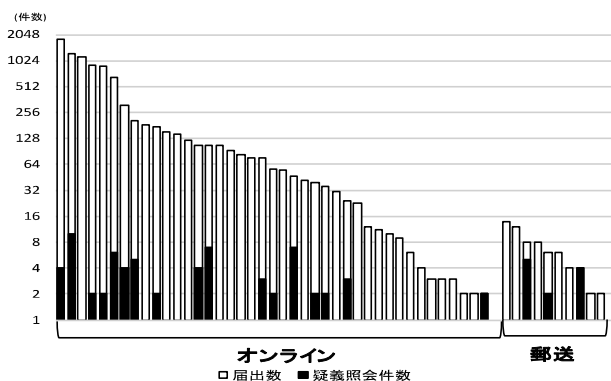


図 1-2 届出方法と疑義照会割合(2019 年症例)

表 2 にエラー・警告コード別の疑義照会件数を件数が多い順にまとめた。★印はオンラインチェックの対象になっているエラーコードを示す。照会件数の減少が多いのは、E4014 治療施設と術後進展度が 157 件、E4020 観血的治療と術後進展度 148 件、E4006 局在と術後進展度 118 件のエラーコードで、いずれもオンラインチェックの対象だった。オンラインチェックはもともと照会件数が多いエラーを届出前に修正することで防止していたことが分かった。

オンラインチェックの対象になっていないコードは、氏名や住所等の重要な個人同定指標に関わるものや統計データに影響があるものも含まれる。そのようなエラーは都道府県登録室が内容を精査して対処することになる。

【考察】

オンライン届出施設は大規模でがん登録に習熟した施設が多いため、郵送届出施設に比べて元々照会が少ない傾向にあったが、チェック強化によりさらに照

会が減少した。

術後進展度に関するエラーはもともと疑義照会件数が多く、それがエラーチェックで検出されることにより照会件数の減少が大きかった。

オンライン届出は施設の利便性やセキュリティの側面だけでなく、ある程度データ精度も担保される。オンライン届出が少ないと疑義照会の減少効果は限定的であるため、オンライン届出の推進が望まれる。

表 2 エラー・警告コード毎疑義照会件数

ol*1	E/W*2 コード	エラー内容	2018年		2019年		増減(件数)
			の件数**	割合	の件数**	割合	
★	E4014	治療施設と進展度・術後	168	(24.6)	11	(8.9)	-157
★	E4020	観血的治療と進展度・術後	158	(23.2)	10	(8.1)	-148
★	E4006	局在と進展度・術後	118	(17.3)		(0.0)	-118
★	E4021	観血的治療と治療範囲	62	(9.1)	12	(9.8)	-50
	W3009	住所不詳	26	(3.8)	16	(13.0)	-10
★	E4015	治療施設と初回治療	26	(3.8)	5	(4.1)	-21
★	E4005	局在と進展度・治療前	15	(2.2)		(0.0)	-15
★	E4010	性状3と進展度・術後	14	(2.1)	4	(3.3)	-10
	E4003	側性なしと局在	14	(2.1)	1	(0.8)	-13
★	E4013	性状3と進展度・治療前	13	(1.9)	2	(1.6)	-11
★	E4009	形態と根拠	11	(1.6)		(0.0)	-11
	W4012	根拠と形態・性状が矛盾	10	(1.5)	10	(8.1)	0
★	E4012	性状2と進展度・治療前	9	(1.3)		(0.0)	-9
	W4009	局在と形態が稀	7	(1.0)	8	(6.5)	1
★	E4025	性状2と進展度・術後	5	(0.7)		(0.0)	-5
	E4008	形態と性状	4	(0.6)	3	(2.4)	-1
	W3005	氏名カタカナ	3	(0.4)	3	(2.4)	0
	W4011	形態・性状と分化度が稀	3	(0.4)	2	(1.6)	-1
★	E4018	診断日と死亡日	3	(0.4)		(0.0)	-3
★	E4024	局在コードと診断根拠	3	(0.4)		(0.0)	-3
	E4002	側性ありと局在	2	(0.3)	6	(4.9)	4
	W4014	局在コードと進展度・術後	2	(0.3)	5	(4.1)	3
	W3008	有用でない届出の可能性	2	(0.3)		(0.0)	-2
	W4006	廃止住所	2	(0.3)		(0.0)	-2
	W4007	側性両側と形態	1	(0.1)	1	(0.8)	0
★	E4004	側性両側と局在	1	(0.1)		(0.0)	-1
	W4013	局在コードと進展度・治療前		(0.0)	4	(3.3)	4
	E1002	空欄を許容しない		(0.0)	3	(2.4)	3
	W4015	性状3と進展度		(0.0)	3	(2.4)	3
	W3010	住所と住所コード確認要		(0.0)	2	(1.6)	2
★	E4019	発見経緯と死亡日の矛盾		(0.0)	1	(0.8)	1
	W3006	生年月日なし		(0.0)	1	(0.8)	1
	W4001	局在と性別		(0.0)	1	(0.8)	1
	W4004	局在と年齢		(0.0)	1	(0.8)	1
	W4017	診断日と生年月日が同一		(0.0)	1	(0.8)	1
	W5001	診断日と死亡日の矛盾		(0.0)	1	(0.8)	1
	W5006	同定内容(性別)		(0.0)	1	(0.8)	1
	W5007	同定内容(生年月日)		(0.0)	1	(0.8)	1
	その他			(0.0)	4	(3.3)	4
	総計		682	(100.0)	123	(100.0)	-559

*1 ★印:オンラインエラーチェックの対象 *2 E:エラー、W:警告
 *3 ひとつの届出票に複数のエラーがある場合は、エラーコード毎に集計

【結論】

オンライン届出施設の照会施設数と照会件数のいずれも減少したため、登録室側も施設側も作業負担が軽減できた。

疑義照会が完全になくなる訳ではないが、術後進展度等の単純なエラーを中心に照会件数が減り、個人同定指標や統計データに関わるようなエラー・警告の照会に集中できるため、オンラインチェック強化はデータ精度向上に有効と考える。